

顔が見える。声が聞こえる。人をつなぐ。渋谷区からのお便りです。

令和2年
(2020年) 7月15日

No.1441



発行 | 渋谷区
編集 | 広報コミュニケーション課
所在地 | 〒150-8010 宇田川町1-1
電話 | 03-3463-1211 (代表)
HP | www.city.shibuya.tokyo.jp/
Twitter | @city_shibuya
Facebook | @shibuya.city
Instagram | @city_shibuya_official
LINE | @shibuyacity



(左)渋谷区健康推進部地域保健課長 後藤真理子 (右)渋谷区健康推進部長兼保健所長 阿部敦子

感染症対策から日々の健康づくりまで。
区民の健康を守る、保健所の取り組み。

2 | 健康への不安や疑問は、
3 | いつでも気軽に相談を。

4 | 「渋谷区新型コロナあんしん
5 | チェックインサービス」を始めましたほか

6 | 介護保険の負担割合証を
7 | 送付しますほか

8 | 暮らしの情報
11 |

渋谷区基本構想が掲げる渋谷区の未来像「ちがいを ちからに 変える街。渋谷区」

健康への不安や疑問は、いつでも気軽に相談を。

渋谷のラジオで
出張インタビュー

新型コロナウイルス感染症対策の最前線を担う「保健所」。区民の健康を守るための取り組みや今後の生活で気をつけたいことなどを健康推進部の二人に聞きました。



何でも相談できる
身近な存在として、
頼りにして
くださいね。

渋谷区健康推進部長兼保健所長
あべあつこ
阿部敦子

医療の現場から、公衆衛生の道へ。

——最初に、保健所の仕組みとお仕事について教えてください。

阿部：保健所というのは、地域保健法という法律で全国に設置が定められている組織で、区内には31カ所あります。各保健所には、私や後藤のような医師をはじめ、保健師、管理栄養士、歯科衛生士、診療放射線技師、衛生監視といった国家資格を持つ職員が、感染症対策、食品衛生、環境・精神保健衛生などの業務にあたっています。自治体によって保健所の体制や業務内容は多少異なるのですが、渋谷区では健康推進部と保健所が一体になっていて、母子保健、がん検診、歯科保健といった健康推進業務も行なっています。

後藤：渋谷区には、中央保健相談所、恵比寿保健相談所、幡ヶ谷保健相談所の、3つの保健相談所が設置されています。これらは、保健師などが区民の皆さんから健康相談を受け付ける身近な窓口です。

——二人とも医師とのことですが、渋谷区に着任する前は、どのような仕事をされてきたのでしょうか？

阿部：私は大学卒業後、放射線治療の臨床医として10年ほど働いていました。その中で保健所と関わりを持つ機会があり、予防医学に懸命に取り組む医師や保健師の姿を見て公衆衛生の道に進みたいと思うようになりました。入都してからは教育庁、福祉保健局などで経験を積み、前任の港区でも保健所長を務めました。

後藤：私は内科医として脳梗塞、心筋梗塞、がん患者などの治療にあたり、医療政策を通じて疾病を予防できたらと思い、入都しました。その後、大学院で医療政策学を学び、平成21年の新型イン

フルエンザ流行時には都内の保健所で対策にあたりました。また、前任の荒川区では健康づくりに関する新事業にも携わってきました。これらの経験が渋谷区での業務にも生きていていると思います。

健康づくりから育児まで、きめ細かにサポート。

——さまざまな自治体で経験を積まれてきた中で、渋谷区の印象はいかがですか？

阿部：私は4月に渋谷区に着任してから新型コロナウイルス感染症対策にかかりきりで…。まだ渋谷区について詳しく知ることができていないのですが、街の印象と同様に区役所内もオープンで親しみやすい雰囲気だなと感じます。

後藤：私は平成29年度に着任したのですが、渋谷区民は健康意識が高いなという印象です。2年前に新たな健康づくり施策として「渋谷区健康増進計画」を策定しました。調査の結果、渋谷区は23区の中でも健康寿命が長いことや良い生活習慣の方が多くことが分かったんです。一方で高血圧の人が多くことや野菜の摂取量が少ないことなどの課題も見えてきたので、デジタルサイネージを使って啓発を行なっているほか、今後はS-SAP協定[※]を結んでいる企業と連携して、より詳しく食習慣を調査する予定です。産官学のつながりによって、きめ細かな健康サポートができるのも渋谷区ならではだと思います。

※S-SAP(シブヤ・ソーシャル・アクション・パートナー)協定。区内に拠点を置く企業や大学等と区が協働して地域の社会的課題を解決していくために締結する公民連携制度。

——「渋谷区子育てネウボラ」も、保健所の新しい取り組みとして注目を集めていますね。

後藤：渋谷区で誰もが安心して妊娠・出産、子育てができるような仕組みをつくりたいと思い、昨年からスタートしました。さまざまなサポートを行なっていますが、特に常勤保健師による妊婦面接や充実した育児パッケージが好評ですね。併せて、保健師の増員・育成にも力を入れて取り組んでいきます。

感染症への正しい理解と周囲への思いやりを。

——ここ数か月は新型コロナウイルス感染症対策もあり、保健所の職員も多忙を極めていたかと思いますが、どのようにしてこの危機的状況乗り越えてきたのでしょうか？

阿部：他部署や東京都などからたくさん応援に来ていただき、区役所の会議室を活用しながら、通常時の4～5倍の人数で業務に当たりました。症状がある人を医療機関に案内する以外にも、陽性者への調査、他自治体の保健所との連絡、企業・店舗などからの問い合わせ対応など、連日電話が鳴り止まない状況でした。それでもチーム一丸となって力を合わせることで、何とか乗り切ることができました。

後藤：区がこれまでに対応した陽性者は約400人(区内医療機関で陽性が確認された他自治体住民など含む)です。4月のピーク時は受診相談が1日に200件以上、陽性者が連日10人以上出しており、深夜ま

で対応していました。区民の皆さんの健康を守り、安心していただくのが私たちの務めですが、同時に職員の心身の健康を守ることも心掛けていましたね。私自身も疲労で倒れることがないように、健康管理をしっかりして臨んでいました。

——保健所では日頃からさまざまな感染症対策を講じていると思いますが、今回特に印象的に感じることはありますか？

阿部：対策の基本に関しては他の感染症と変わりません。ただ、新型コロナウイルスは未知の感染症であり、多くの情報が飛び交っていたことから、人々の不安がとでも強かったです。また、ウイルスの特性上、個々の事例に関して終息宣言のようなものを出すのは難しいというもあります。保健所としては情報をきちんと公開し、感染拡大を防ぐための調査や消毒などの対応も行なっておりますので、信頼していただけたらうれしいです。

後藤：電話相談でも、発熱などの症状はないけれど、とにかく不安だとおっしゃる方が多かったです。時には激しいお言葉をいただくこともありましたが、それだけ不安が大きいのだと感じましたので、できる限りお気持ちに寄り添うような対応を心掛けていました。

——現在、新型コロナウイルス感染症の第一波とされる時期を乗り越え、リスクと共存する「ウィズコロナ」と呼ばれる段階に進んでいます。今後私たちは、どのような生活を心掛けたいのでしょうか？

後藤：感染症対策の基本である手洗いと咳エチケット、そして体調がすぐれないときは外出しないことを心掛けていただければと思います。また、接待を伴う飲食店で多くの感染者が確認されていますので、ご注意くださいですね。日々の生活については、あまり心配し過ぎないことが心身の健康にとって大切です。

——外出時にマスクを着けることも多いですが、これからの季節は熱中症にも注意したいですね。

後藤：そうですね。マスクをすることで熱がこもったり、喉の渴きを感じにくくなったりして脱水症状を引き起こす恐れもあります。暑い日の日中の外出はなるべく避けていただくほか、こまめな水分補給や、屋外で近くに人がいない時はマスクを外すなどの工夫をしていただきたいと思います。

阿部：厚生労働省の提唱する「新しい生活様式」を取り入れながら、社会生活がうまく回るようになってほしいですね。また、感染しないように十分注意していても感染してしまうこともあります。たまたま感染された方が自分を責めたり、周囲からの心ない言葉でつらい思いをすることがないように、ご理解とご配慮をお願いしたいです。私たち保健所も、より多くの方々に正しい情報をお届けできるよう取り組んでいきます。

後藤：現在、保健所ではさまざまな事例を通して、どのような状況で感染が拡大するかを分析しているところです。陽性となった方には二次感染を防ぐために調査をさせていただいていますが、その調査内容が漏れることはありませんので、ありのままをお答えいただきたいと思います。



手洗いと咳エチケット、
熱中症対策も
心掛けましょう。

渋谷区健康推進部地域保健課長
ごとうまりこ
後藤真理子

——まだ油断できない状況が続きますが、協力して乗り越えていきたいですね。最後に、区民の皆さんへメッセージをお願いします。

阿部：渋谷区健康推進部・保健所では年齢性別を問わず、全ての区民の皆さまの健康を守りたいと考えています。病院に行くほどではないけれど健康に対して少し不安だなど感じる時や、医療や保健に関して分からないことがあったときに相談できる身近な存在として、頼りにしていただけたらうれしいです。

後藤：新型コロナウイルス感染症の受診相談は専用の相談窓口へ、その他の身近な健康相談は区内3カ所の保健相談所にお電話いただければと思います。どんな小さなことでも保健師が相談に乗りますので、お気軽にお話しください。

新型コロナウイルス感染症に関する受診相談窓口

☎3463-3650
※8:30～17:15(土・日曜日、祝・休日を除く)

☎5320-4592
※17:00～翌9:00(土・日曜日、祝・休日終日)

渋谷区子育てネウボラ

渋谷区子育てネウボラとは
不安なく喜びの多い子育てができるよう、妊娠・出産からお子さんの就学まで、担当保健師を中心に途切れなくサポートしていく仕組みです。「ネウボラ」はフィンランド語で「相談場所」を意味します。妊娠・出産・育児について気軽に相談できますので、ぜひご利用ください。
◀ ホームページはこちら

健康相談窓口

中央保健相談所 ☎3463-2439
恵比寿保健相談所 ☎3443-6251
幡ヶ谷保健相談所 ☎3374-7591

このインタビューは7月21・28日に「渋谷の星」で放送します。

問広報コミュニケーション課広報係 ☎3463-1287 5458-4920

渋谷区の番組を放送中です

ラジオ しゅぼや区ニュース (10分間) 月～木 11:00/16:00/21:50 「しゅぼや区ニュース」の情報を発信します。	渋谷の星 (45分間) 火 11:15 渋谷区で活躍する人たちが登場します。	渋谷のくらし (30分間) 火 16:20 地域の催しなどの様子を伝えます。	ラジオ しゅぼや区ニュース (区長の部屋ほか) (10分間) 金 11:00/17:00/19:50 長谷部区長が出演します(ラジオしゅぼや区ニュースの内部になる場合あり)。
--	--	--	---

しゅぼや区 × 渋谷 とは？

「しゅぼや区ニュース」では毎号、「渋谷のラジオ」と連動したページを掲載。「しゅぼや区ニュース」と「渋谷のラジオ」が連携して、人と人のつながりが広がる紙面を届けています。

周波数：
87.6MHz FM ☆公式アプリでも聴取可能

所在地 | 渋谷3-22-11 サンクスプライムビル1階 TEL | 6712-6876
FAX | 5778-9620 E-MAIL | info@shiburadi.com HP | shiburadi.com/